

8 こんな場合どうしたらいい？

子供が助けを
求めてきたら

一時的に保護して、
あわてたり興奮せず、
子供を落ち着かせて話を聞き、
警察に通報してください。



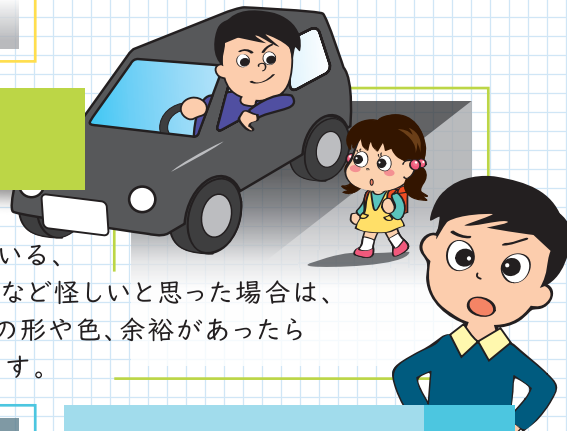
子供の悲鳴や防犯ブザーの
音が聞こえてきたら

周囲で子供が助けを
求めているか確認してください。



怪しい人や
車を発見したら

子供達に対し無差別に声を
掛けたり、車から声を掛けている、
子供をカメラで撮影しているなど怪しいと思った場合は、
警察へ通報してください。車の形や色、余裕があったら
ナンバーの確認をお願いします。



一人で遊んでいる子供や
遅くまで遊んでいる子供を見かけたら

ひと声掛け、早く帰るように
促してください。
また、不似合いな子供連れを
見かけた場合もひと声掛けるか、
緊急の場合は110番通報してください。



《編集・発行》青森県警察本部

《参考文献》「みんなで気をつけて事件をふせよう!」警察庁生活安全局生活安全企画課 / 「子どもは「この場所」で襲われる」小宮信夫(小学館新書)
「地域安全マップ作製マニュアル(四訂版)」小宮信夫(東京法令出版) / 「写真でわかる世界の防犯・遺跡・デザイン・まちづくり」小宮信夫(小学館)
「青色防犯パトロールマニュアル」青森県警察本部生活安全局生活安全企画課

保護者・ボランティア向け

子供見守りマニュアル

僕はぜんくん
いざという時のために
備えよう!

私はあんちゃん
私たちが
見守ってね!

もくじ

- 1 子供が被害に遭うときの特徴は?
- 2 見かけで怪しい人を見破るのは難しい!
- 3 危険な場所ってどんな場所?
- 4 親子で「地域安全マップ」を作ってみよう!
- 5 家族で守る「我が家のルール」!
- 6 子供の目線で防犯!
- 7 見守り活動を試みよう!
- 8 こんな場合どうしたらいい?



わんわん署



にゃんみ先生

青森県警察本部

はじめに

近年、子供が性犯罪や連れ去りなどの被害になるケースが後を絶ちません。

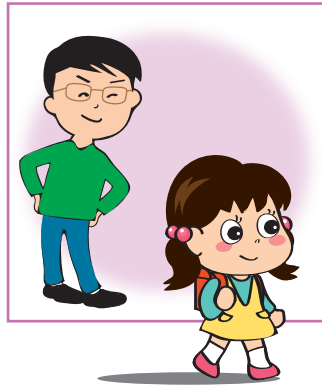
子供を犯罪被害から守るためには、日々の生活の中での防犯指導と見守り活動が必要です。そのためには、保護者、地域の皆さまの「理解」と「協力」が不可欠です。

このマニュアルは、「保護者と子供と一緒に学んでもらいたいこと」、「保護者・防犯ボランティアが子供見守り活動を行う上でのポイント」をまとめました。

1 子供が被害に遭うときの特征は?



一人でいるときの方が狙われやすい



複数でいれば、一緒にいた子供が周囲の大人に事件を知らせることができ、早めに救助できます。

言葉巧みに誘われ、思わずついて行ってしまふ



「ゲームは好き?一緒にやろうよ」「迷子になった犬と一緒に探して」「お母さんが病気だから助けに来て」など、子供がつい気を許してしまう言葉で誘い出します。また、少しでも知っている人だと安心して誘いに乗ってしまいます。

犯罪に巻き込まれても、誰にも言わないことがある



わいせつ事件は、羞恥心や恐怖心、親にしかられるかもしれないなどといった理由で、被害に遭っても黙っている子供がいます。また、事件後の心的外傷後ストレス障害(PTSD)も心配です。

2 見かけで怪しい人を見破るのは難しい!



子供を狙う犯罪者は、子供に警戒心を抱かせないために普通の格好をして怪しまれないように近づきます。

- 黒色の服、マスク、サングラス、帽子を目深に被るなど外見が不審者と見られやすい格好とは限らない。
- 犯罪者は男性だけでも限らない。

3 危険な場所ってどんな場所?

犯罪者は、犯罪に成功しそうな場所(=「危険な場所」)を探して子供に近づきます。「危険な場所」とは、まわりから「入りやすい場所」と、まわりから「見えにくい場所」です。子供には、「景色を見て危険をさける」判断力をつけさせましょう。また、「危険な場所」は、子供の見守り活動を行う上でのポイントにもなります。



「入りやすい場所」
= 悪人が入りやすい

「見えにくい場所」
= 悪いことが見えにくい

犯罪者が怪しまれずに子供に近づいて、すぐに逃げられる場所



物理的に「入りやすい」

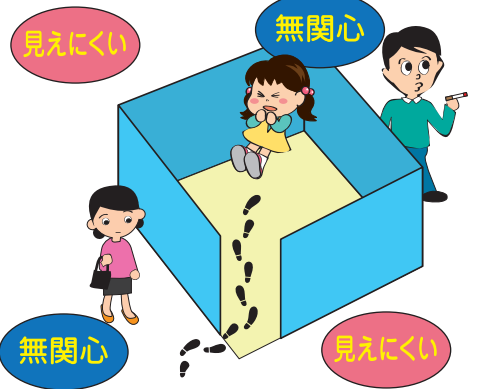
- 入るのに邪魔になるものがない。
- 境目がはっきりしていない。
- 出入口(逃げ道)が多い

心理的に「入りやすい」

- 近所の人たちが犯罪者に注意していない。
- 近所の人たちが集まるのが少ない。

【例えば】

- 誰もが自由に入出入りでき、周りの人が無関心
- ゴミが放置され、住民が無関心



物理的に「見えにくい」

- 物で遮られている。
- 周囲に住居がないなど誰にも見てもらえない。
- 暗い。
- 見るのに邪魔になるものがある。

心理的に「見えにくい」

- 管理されている雰囲気を漂わせていない。荒廃している。
- 不特定多数の人が集まったり行き交っている。(=他人への関心、注意が分散される)
- 近所の人たちが地域のことに関心がない。
- 近所で困っている人がいても、見て見ぬふりをする人が多い。

【例えば】

- 公園の中が周囲から見えない。
- 住宅の塀が高く、子供の存在が見えない。

具体的に危険な場所を考えてみましょう

危険な場所を考えてみよう!

通学路① (住宅街)

危険な場所



- 塀や垣根が高く、周囲の目が届かないトンネルのような「密室」になっている。
- 落書きや車が放置されていて住民の関心がない。

安全な場所



- たくさんの窓が通りに面して見えやすい。
- 花の手入れなどは、地域の当事者意識が高いことを犯罪者に連想させる効果がある。
- 子供110番の家

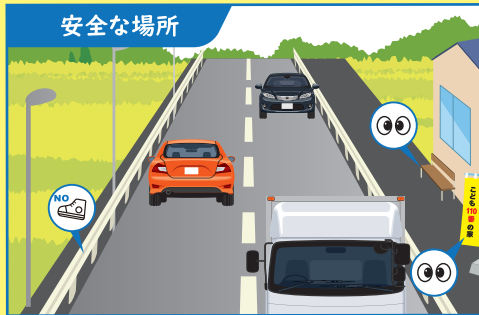
通学路② (郊外)

危険な場所



- ガードレールがなく、車に連れ込まれやすい。
- 周囲に家がなく、人も少ないため見てもらえない。

安全な場所



- ガードレールがあり、声を掛けられたり連れ込まれにくい。
- 家の前にイスが置かれ、地域に目が向けられている印象を与える。
- 子供110番の家

通学路③ (商店街)

危険な場所



- 路地に連れ込まれても見てもらえない。
- 自転車やゴミ、落書きが放置されていて住民の関心がない。

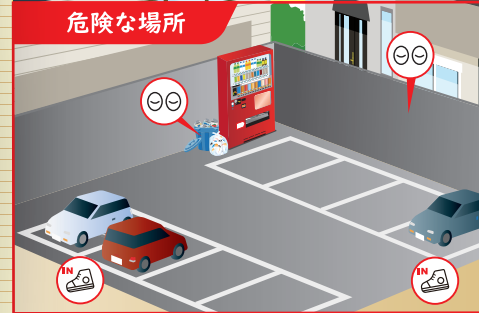
安全な場所



- 路地にフェンスがあり、入りにくい。
- 防犯カメラが設置され、地域に対する関心がある。
- 見守り活動により、地域の目が向けられ、犯罪者が入りにくい。

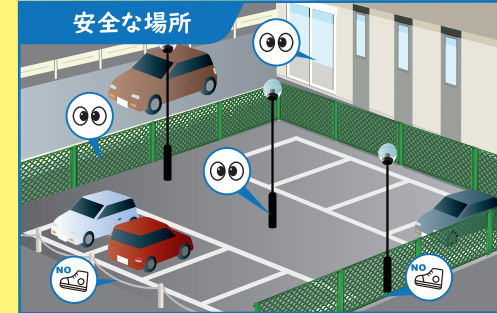
駐車場

危険な場所



- 誰でも自由に入りやすい。
- 塀が高く、周囲から見えない。
- ゴミが放置され地域の関心がない。

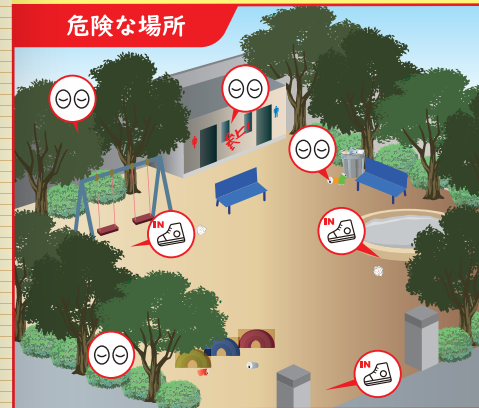
安全な場所



- フェンスやチェーンが張られ、入りにくく見えやすい。
- 街灯が設置され、夜でも明るく見えやすい。

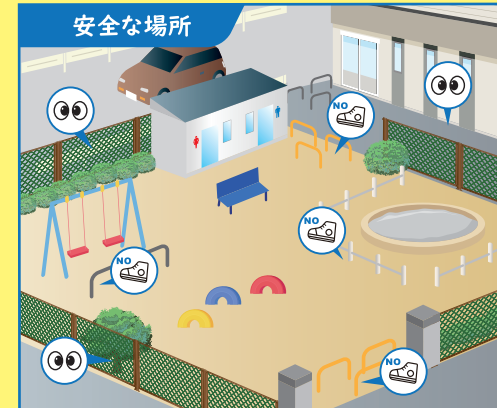
公園

危険な場所



- 木々に囲まれていて周囲から見えない。悪いことをされても見つけてもらいにくい。
- 自由に入りにくいため、犯罪者が入りやすく逃げやすい。
- ゴミや落書きが放置され、地域の関心がない。
- 施設の管理がされておらず、地域の関心がない。
- 犯罪者が、遊具で遊んでいる子供に近づきやすい。不自然に見えづらい。

安全な場所



- フェンスで囲まれ、入りにくく見えやすい。
- 周囲の家の窓が面して見えやすい。
- 出入口に防護柵があり、入りにくい。
- 遊具がフェンスなどで囲まれ、犯罪者が入りにくい。
- 公園内の手入れがしっかりされていて、地域住民の関心がある。

危険な
場所
アイコン



入りやすい



見えにくい

安全な
場所
アイコン



入りにくい



見えやすい

危険な場所を考えてみよう!



赤 危険な場所

青 安全な場所



周りから見えにくく、
犯罪者が身を
隠しやすい

雑木林

荒れた空き家
や店舗

犯罪者が身を隠し
やすく、連れ込まれる
危険性がある

周囲に住宅が
少ない道

人の目がなく、
見てもらえない

信頼できるお店

・コンビニ
・ファミレス
・ガソリンスタンド
・病院 ・銀行
・郵便局 など

いざというときに
にげこめるよ!

高い塀が続く道

危険な目にあっても
周囲から見えない

木がうっそうと
している公園

見通しが悪く
周りから見
てもらえない

ビルや店舗の
非常階段や屋上

危険な目
にあっても気づ
いてもらえない

花壇などが
整備された場所

地域住民の
関心が高いね!

警察署、交番

いざというときに
にげこめるよ!

ゴミが散らかっていたり
落書きの多い場所

入りやすく、
犯罪者が身を隠し
物色しやすい

子供110番の家

いざというときに
にげこめるよ!

フェンスのない駐車場や
自由に入出入りできる駐輪場

車で連れ去られ
やすい

ガードレール
のない道

路上駐車
の多い道

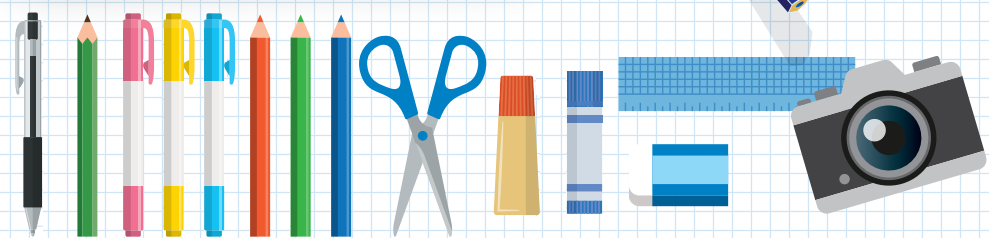
車に連れ込まれ
やすい

4 親子で「地域安全マップ」を作ってみよう!

街の危険ポイントを探して、地図にまとめてみましょう。
 「危険な場所」を見つける目を養うと、
 色々な場所で応用できます。
 また、安全な道を探すことが防犯につながります。



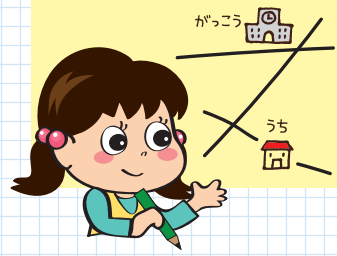
- 用意するもの
- 紙
画用紙、ノート、模造紙など
 - 筆記用具
鉛筆、ペン、消しゴムなど
 - のり・両面テープ
 - ハサミ
 - カメラ
- 色鉛筆やカラーペンなどがあるとカラフルになります



手順

1

家から学校までの道の地図を書いてみましょう。



2

公園、図書館、児童館、おけいこの教室、友達の家など、よく行く場所を書き込みましょう。



3

地図を見ながら、実際に街を歩いて、「危険な場所」「安全な場所」「安全な場所、危険な理由、安全な理由をメモしましょう。



4

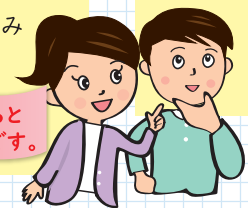
「危険な場所」「安全な場所」を写真撮影しましょう。



5

戻ったら、地図に写真を貼り、メモを見ながら、「危険な場所、危険な理由、安全な場所、安全な理由を地図に書き込みましょう。

付箋に書いてみると簡単で見やすいです。



6

地域安全マップが完成したら、どの道を通るのが安全か、どこに気をつけなければならないか、親子で話してみよう。



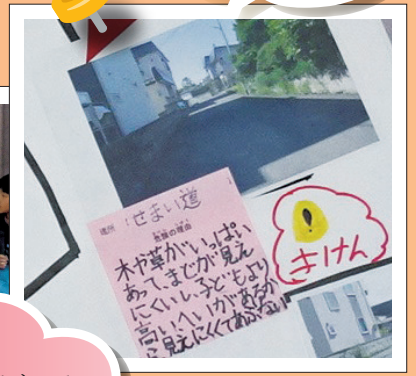
子供会や町内会で作ってみても楽しいね!



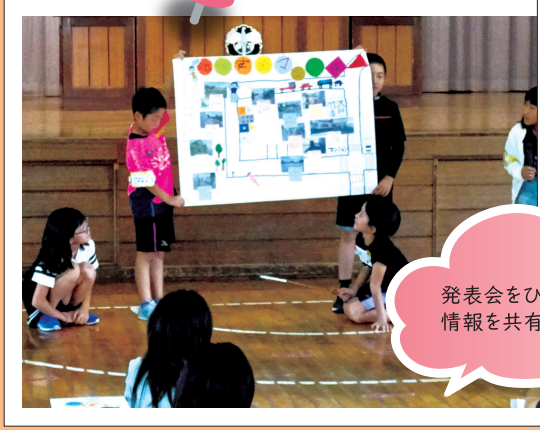
まずは街並みを書いてみよう



危険な場所と安全な場所の写真を貼りコメントを書き込む



発表会をひらいて情報を共有しよう



5 家族で守る「我が家のルール」!

家族で守る「我が家のルール」にしてください。



6 子供の目線で防犯!



- 子供への防犯指導は、「繰り返し」が基本です。
- 日常生活の中で、子供が理解できるように具体的に教えてあげてください。
- 日常生活で「危険な場所」に行ったときに、「あなただったらどうする。」と問いかけてから正しい方法を教えるなど、一方通行にならないよう指導しましょう。



7 見守り活動をしてみよう!



日常でも気軽にできる「ながら見守り」

「ながら見守り」とは、普段の生活や事業活動をしなが、防犯の視点を持って通学路等の見守り活動を行うことを言います。

【例えば】

植物への水やり、犬の散歩、買い物やウォーキング、通勤、配達、雪かきをしながら



見知らぬ人に対する声掛け

防犯効果を高める1つの方法は、「見知らぬ人に対する声掛け」です。犯罪を犯そうとする人は、自分の存在を周囲に知られたくないと思っています。声掛けすることで犯罪を断念させることとなり、継続することによって犯罪が起きにくい街が形成されます。



ホットスポットパトロール

「ホットスポット」とは犯罪が起きやすい「危険な場所」(「入りやすい場所」「見えにくい場所)」を言います。「ホットスポットパトロール」は、「危険な場所」に着目したパトロールです。「ホットスポット」を見つけたら、見知らぬ人への声掛けと合わせ、15分程度の警戒をすることで、犯罪発生の抑止効果が上がります。(次のスポットに移動したくても15分は我慢)



怪しい人や車を発見した場合は警察に通報してください。